

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471100230		
法人名	社会福祉法人 ライフケア赤井江		
事業所名	グループホーム あぶくま ユニット名 たんぼぼ		
所在地	宮城県岩沼市阿武隈1丁目8-38		
自己評価作成日	平成22年1月25日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に笑顔が絶えないをモットーにしています 職員の一言で利用者の笑顔になる瞬間がたまりません
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JRの駅から車で約10分、阿武隈橋手前に2ユニットのグループホーム「あぶくま」がある。広い庭があり、地域の人も参加して消火訓練をしたり、季節によって外気浴を楽しんだりしている。居室は広く、入口はしゃれた格子戸がありその奥にドアがある。部屋には洗面所、トイレ、エアコン、加湿器などもあり恵まれた環境である。「住み慣れた自宅ではないが、家庭的な雰囲気であったり時間が流れ、専門スタッフにさりげなく見守られながら過ごして頂きます。」と笑いの絶えない和やかな家庭的な雰囲気であった。国家資格の介護福祉士が10名もおり、よりよいケアを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームあぶくま)「ユニット名 たんぽ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿ってサービス提供出来ている 毎日笑顔で安心して頂けるサービスを心掛けている	理念は各ユニット毎に、グループホームに対する思いを話し合っつくれた。共通する事は「笑いのある和やかなケア」であった。理念は、行動規範であり、実践される事で意味があることを職員は理解していた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の活動(消防訓練・清掃活動)に参加し 行事の案内(消防訓練・夏祭り等)の案内状を回覧したり交流を図っている	地域密着型の意味を皆で話し合っており、地域福祉の拠点としてまた地域の社会資源として、地域との交流に努めており、地域の行事(公民館祭り、福祉の集い、文化祭等)にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学の方等に対しては生活の様子を見て頂き「グループホームとは何なのか？」等の情報提供をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しており互いに情報交換ができています。そこで出た意見は出来ることから実践し意見を反映できる様にしている 子ども110番にもなっている	会議は、メンバーの協力で2ヶ月に1回開催され、市の職員や地域包括支援センター職員も毎回参加し、いろいろ貴重な情報や話題を提供し、事業所側の一方的な報告だけでなく双方向的な会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員とは運営推進会議で意見交換も行っている。また随時Fax等を使用しながらも連絡できている	市の担当者とは日常的に連携を取っており、インフルエンザの情報を頂いたり、スプリンクラーの設置、夜間ケア加算、待遇改善助成申請など助言と指導を頂いている。又、市の福祉キャラバン等に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で声掛けや見守りを行い対応しているが限られた職員の中での玄関施錠は場合により安全確保のため行っている	職員は身体拘束は虐待である事を研修等で理解はしていても、止むを得ず家族に了承を得て施錠したり、ミトンを使用する事もある。改善する為にどうすればよいか非常に難しい問題はあるが、もう一度皆で検討して頂きたい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の方達を尊重し大切に接しており虐待等見られていない。虐待防止関連法に参加した職員が中心となりユニット内で勉強している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	もう少し具体的に勉強したい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学・申し込みの時点でも説明・理解して頂けるよう対応しており利用者・家族が納得・理解出来る様説明もしている 契約時には十分に納得して頂けていると思う		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置いつでも要望や意見が言えるようにしてある また面会時や家族の集い時に話し合える場面がある	サービスの貴重な情報源として、意見箱や運営推進会議、家族の集い、訪問時等機会があり、声をかけ話し易いよう心掛けている。家族の思いを組み寝たきりの人でもシャワー浴になるが気持ちよく入浴して頂いている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや勤務中でも会話等で職員同士が意見を言い合っている	職員がよいケアをする為に働き易い環境を大事にしたいと、全体会議やミーティング等で意見を聞いている。話し合いの中から役割と責任を明確にしたり、評価制度で自己申告をし評価され意欲的にケアに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシート・挑戦シートを活用し出来ていると思われる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1度テーマを決めて事業所全体での勉強会に参加したりその他様々な勉強会にも参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム研修者・看護学生の実習を受け入れている また県の発表会やブロックの会議等で情報交換できている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者野か他の話を良く聴き何を考えているのか不安・要望を理解するよう努めている生活に慣れ安心して頂ける様声掛け対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者同様に家族とも面会時また電話等にて話す機会を設け不安・要望に対処出来るよう心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族とも相談しながら優先順位を決め対応するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存機能を見極め継続して頂いている 不安等のある利用者に対しては早めの段階から声掛け行い安心して生活出来る様対応している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日常生活の様子を伝えている お便りにも生活の様子が解るようにコメントしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	重度化により意志疎通が困難になってきた事により面会が少なくなってきた 家族面会時には時によって職員が会話に混ざり関係が上手くいく様支援している	入居しても今までの社会との関わりや人間関係を大事にしたいとしている。共に植木をしていた人が訪ねて来ることもある。又、馴染みの場所として竹駒神社の祭典に出掛けたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングが常に集まる場所となっており就寝時以外はほぼ全員が過ごしている 利用者一人ひとりの長所を生かし利用同士お互いに支え合える様に職員が間に入っていることもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域で会った時等は気軽に声を掛けたり掛けられたり等状況を尋ねたりしている また終了後も顔を店に来てくれる家族もいる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントしケアプランを立てたり生活のサイクルを把握して柔軟に対応する様努めているがまれに業務の流れを優先させてしまう時もある	思いや意向の把握は「個別ケア」の原点であると利用者と居室、お風呂、散歩等で職員との何気ない会話からも見出し共有している。一人ひとりの思いの食事、お風呂、買い物、外出などに応じるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族より会話にて状況を把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりのペースに合わせて生活して頂けるよう観察・行動・会話等より把握 また職員間での情報交換に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケース検討回を開きケアの向上に努めている 家族面会時にも情報提供し検討会に活かしている	介護計画は「チームケア」の要であり、利用者と家族の思いをつなぐ掛け橋でもある。毎月モニタリングをし3ヶ月毎にカンファレンスをし見直し家族の同意を得て渡している。家族に出来るだけ丁寧に説明をして頂きたい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に入力・毎月検討会を開きまとめていく その際の課題や気づきをケアプランに反映させて活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合等もあり難しい事もあるが出来るだけ取り組むよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	特に近所の方々の協力があり支援できてる (芋煮会等の参加)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ている 必要であれば担当医に看護師より情報提供している	今までのかかりつけ医との関係を大事にし通院、往診も継続を基本としている。通院は家族が付き添うが必要な情報は提供している。薬なども看護師が確認し服薬等もチェックしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週2回の勤務 24時間体制での連絡等必要に応じて連絡が取れ指示や駆けつけてくれる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には看護サマリを提供し情報交換を行っており入院中の状況も電話Faxにて行っている事もある		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いにて今後起こりうる状況を話したり希望を聴いたり特養への申し込み等をアドバイスしどのような状況になっても安心して頂ける様努めている	看取りの経験はないが今後重度や看取りは避けて通れない。今までも重度や看取りについて家族と話し合いはしているが、出来る事出来ない事を含めた方針を成文化したものでの話し合いはしていない。	対応方針を成文化し、病状の変化により揺れ動く気持ちを節目節目に意思確認書で確認し、関係者が思いを共有し、出来るだけいいケアをし最後までその人らしく過ごして頂けるよう思いに応えて頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作りを行ったり救急法の講習会に参加したりしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災・地震の避難訓練を地域の方々の協力の元行っている	マニュアルがあり消防総合訓練も年2回(夜間想定含)、又、ホーム独自の夜間想定訓練も実施している。訓練に近所の人も参加している。スプリンクラーは見積り中、自動通報装置や火災報知機等は定期点検している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合わせて対応しているが知らず知らずのうちに不適切な言葉が発してしまっている事があり利用者本人の立場でどうして欲しいのかを常に心に置いて接していくよう努めている	入居者を人生の先輩として誇りや尊厳を大切にしたいと名前に「さん」づけで呼んでいる。耳の遠い人もおり気を使っているが、命令や禁止口調のようなものは感じられなかった。プライバシーを損ねない対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合った希望を出来る限り取り入れ普段の会話等で自己表現出来る様に環境設定(雰囲気作り)している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体の生活が出来ていない事もあるが利用者の状況に合わせ臨機応変に対応している(例えば昼寝・入浴・家事手伝い等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時・起床時に行っている また女性なら口紅も塗る事もある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物を前もって聴いてメニューに入れたり毎日の事であればテーブル拭き・下膳等出来る範囲で食事を楽しむ雰囲気を作っている	ユニット毎に献立も違い食材の購入もそれぞれである。入居者の好みに合わせて、美味しく食べて頂きたいという姿勢が見られた。職員も同じ物を食しながら話題を提供している。法人の栄養士の助言指導も頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合わせ食事形態・水分量・摂取量等対応して記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼・夕食後の口腔ケアの徹底 歯科医・衛生士の訪問等で出来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている オムツ・パッドの使用法等職員で話し合い汚さない様に対応する様努めている 要介助の利用者には対応を強化してはいるが完全ではない	トイレの排泄は生きる気力に繋がると、排泄パターンを把握しサイン等に気をつけ、トイレの排泄をお願いしている。夜は出来るだけ安眠して頂けるよう、その人にあったオムツやパッドを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて下剤服用している 毎日乳製品を摂取したり体操を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来る様にしている 声掛け行い対応 拒否されることもあるが何度かの声掛けで入浴される場合もある また皮膚の状態によっては1日おきの利用者もいる	入浴は出来るだけ気持ちよく、ゆったり毎日でも好きな時間に入って頂くようにしている。食後は眠くなり風呂に入る人は今はいない。柚子湯や菖蒲湯など季節・生活習慣にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の睡眠パターンに合わせ対応 昼寝等を行っている方もいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更時には様子観察を徹底し変化があれば申し送り等で明確にしている 薬の効能・説明書等で確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	運動会・お誕生会等のお楽しみ会・様々な慰問・買い物等その利用者の残存機能に合わせ可能な限り楽しんで頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	祭り・イベント(文化祭等)・季節により散歩・外気浴等を行っている また家族の協力により自宅・親類宅等外出している (しかし新型インフルエンザ等にて外出を自粛した年であった)	外出は気分転換にもなり五感の刺激にもなるので、出来るだけ外出したいが、入居者の重度化が進み外出もいろいろ難しくなっている。季節によっては庭に出てゆっくり散歩したり、竹駒神社の初午大祭のお祭りに出掛けたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より小遣いを預かり職員が管理し保管している 現在は本人管理は出来ない状態 必要に応じて(家族了解の元)すぐに使える		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は行えたが最近は重度化しており難しくなってきた		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは音楽が流れ壁には季節にあった装飾品や花を飾り居心地良く過ごせるように 安心出来る様にしてある	リビング兼食堂は、天井も高く照明も柔らかく床暖房でエアコン、加湿器、24時間の換気等で異臭のようなものも感じられず快適な環境であった。清潔で明るい雰囲気笑顔があった。お雛様など廊下に飾られ季節を感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室には馴染みのある物を置き各コーナーには長椅子を用意しどこでも過ごせるようにしてある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室馴染みの物を置いて居心地良く過ごせるように 安心出来る様にしてある	居室は広く洗面所やトイレもある。加湿器やエアコンも備えられ環境に恵まれている。室内には身の回りのものが持ち込まれ、写真や時計や暦、ソファ、テレビ、位牌など今までの生活の継続が感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札があり迷わない様に目印を付けたり等し安全で安心出来る環境作りに努めている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471100230		
法人名	社会福祉法人 ライフケア赤井江		
事業所名	グループホーム あぶくま	ユニット名	ふきのとう
所在地	宮城県岩沼市阿武隈1丁目8-38		
自己評価作成日	平成22年 1月27日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年 2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・大家族の様に、共に支え合いながら、笑ったり、怒ったりしながらも、楽しく1日1日が過ごせるように努めています。 ・笑顔が絶えず、利用者、職員共に生き生きと生活しています。 ・一人一人のペースを大事にし、それぞれに過ごして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>JRの駅から車で約10分、阿武隈橋手前に2ユニットのグループホーム「あぶくま」がある。広い庭があり、地域の人参加して消火訓練をしたり、季節によって外気浴を楽しんだりしている。居室は広く、入口はしゃれた格子戸がありその奥にドアがある。部屋には洗面所、トイレ、エアコン、加湿器などもあり恵まれた環境である。「住み慣れた自宅ではないが、家庭的な雰囲気であったり時間が流れ、専門スタッフにさりげなく見守られながら過ごして頂きます。」と笑いの絶えない和やかな家庭的な雰囲気であった。国家資格の介護福祉士が10名もおり、よりよいケアを目指している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームあぶくま)「ユニット名 ふきのとう 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員間で話し合いを行って作り上げた理念で、ロッカー室等の必ず目につく場所に貼りだし、常に忘れない様共有し、実践につなげています。	理念は各ユニット毎に、グループホームに対する思いを話し合っつくられた。共通する事は「笑いのある和やかなケア」であった。理念は、行動規範であり、実践される事で意味があることを職員は理解していた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・日常の挨拶を始め、地域の行事には参加し、常に交流を図っています。地域の子供達の訪問もあります。	地域密着型の意味を皆で話し合っており、地域福祉の拠点としてまた地域の社会資源として、地域との交流に努めており、地域の行事(公民館祭り、福祉の集い、文化祭等)にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・老人会等からの講演の依頼を受けたり、相談を受ければアドバイスを言ったりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議には介護職員も必ず参加し、記録等を通して全職員に伝達し、サービス向上に活かしています。	会議は、メンバーの協力で2ヶ月に1回開催され、市の職員や地域包括支援センター職員も毎回参加し、いろいろ貴重な情報や話題を提供し、事業所側の一方的な報告だけでなく双方向的な会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・主に所長が対応を行っていますが、必要時は協力を頂いています。研修会にも積極的に参加しています。	市の担当者とは日常的に連携を取っており、インフルエンザの情報を頂いたり、スプリングラーの設置、夜間ケア加算、待遇改善助成申請など助言と指導を頂いている。又、市の福祉キャラバン等に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・感染症、その他の病気を発生する恐れがあり、家族からの希望もあって、やむおえずミトン等の使用を行っています。	職員は身体拘束は虐待である事を研修等で理解はしていても、止むを得ず家族に了承を得て施錠したり、ミトンを使用する事もある。改善する為にどうすればよいか非常に難しい問題はあるが、もう一度皆で検討して頂きたい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・一部の職員は指導者講習を受けていますので、今後勉強会を設けていく予定です。職員同士注意し、虐待防止には常に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・学ぶ機会は少ないが、必要があれば話し合いや支援は行っていききたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約、改定時等その都度家族に説明を行い、理解、納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族の集いや、面会時を利用し、意見や要望を聞いたりして、何かあれば職員間で話し合い、運営に反映させています。	サービスの貴重な情報源として、意見箱や運営推進会議、家族の集い、訪問時等の機会に、声をかけ話し易いよう心掛けている。家族の思いを組み寝たきりの人でもデイサービスのリフト浴で気持ちよく入って頂いて	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員全体会議や各ユニットミーティング時に職員の意見や提案を聞き、反映させています。	職員がよいケアをする為に働きやすい環境を大事にしたいと、全体会議やミーティング等で意見を聞いている。話し合いの中から役割と責任を明確にしたり、評価制度で自己申告をし評価され意欲的にケアに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・全員が満足している訳ではないが、職場環境、条件等の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修会には積極的に参加させ、社内研修会に関しても参加を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・内部研修会や研修会への参加に努め、他施設の職員との交流の機会を作り、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前に必ずホーム見学を行っていただき、ホームの様子を見たり、話を聞く機会を設けています。入所後も会話の時間や見守りを重視し、ご本人の安心を確保する為の関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所前に必ずホーム見学を行って頂き、話を聞く時間を作っています。面会時等ご本人様の生活の様子等伝えたりしながら、ご家族の話も聞き、良い関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご本人やご家族から情報を頂きながら、職員間で話し合いを行い、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご自分で出来る事は、出来る限り見守り重視での対応を心掛け、お手伝いしたり、お手伝いをして頂いたりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・協力をして頂ける所は協力を頂き、ご本人とご家族の絆を大切にしながら、共にご本人を支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族の協力を頂きながら支援に努めていますが、職員の対応には限界があります。	入居しても今までの社会との関わりや人間関係を大事にしたいとしている。共に植木をしていた人が訪ねて来ることもある。又、馴染みの場所として竹駒神社の祭典に出掛けたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・リビングで過ごされる時間は職員が間に入って、利用者同士のコミュニケーションを取れる様に支援しているが、意思疎通が難しい方に関しては利用者同士の関わり合いは難しいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・必要に応じて相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ほとんどのの方が自分の思いを言葉に出来ない為、日常の様子を考慮しながら職員間で検討し、思いや意向の把握に努めています。	思いや意向の把握は「個別ケア」の原点であると利用者と居室、お風呂、散歩等で職員との何気ない会話からも見出し共有している。一人ひとりの思いの食事、お風呂、買い物、外出などに応じるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・生活歴等、ご本人やご家族に伺いながら把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・申し送りや様子観察を行い把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人やご家族からの意見が少ないが、月に1回職員間でモニタリングを行い、3か月毎にプランの見直しを行っています。	介護計画は「チームケア」の要であり、利用者と家族の思いをつなぐ掛け橋でもある。毎月モニタリングをし3ヶ月毎にカンファレンスを見直し家族の同意を得て渡している。家族に出来るだけ丁寧に説明をして頂きたい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子等気付いた事は記録に残し、申し送り等で職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その時々に応じた柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・防災訓練や地域の行事への参加等を通して支援に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・病院受診はご家族の対応をお願いし、医療機関に対しては手紙や電話にて状況説明を行い、適切な医療を受けられる様支援しています。	今までのかかりつけ医との関係を大事にし通院、往診も継続を基本としている。通院は家族が付き添うが必要な情報は提供している。薬なども看護師が確認し服薬等もチェックしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・その都度ご本人様の状態を報告し、指示を頂きながら支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入退院時は看護サマリの作成や電話連絡等で情報交換を行い、安心して対応出来る様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ご家族に状況を理解して頂き、早い段階から話し合いを行い、重度化や終末期に向けた方針の共有と支援に取り組んでいます。	看取りの経験はないが今後重度や看取りは避けて通れない。今までも重度や看取りについて家族と話し合いはしているが、出来る事出来ない事を含めた方針を成文化したものの話し合いはしていない。	対応方針を成文化し、病状の変化により揺れ動く気持ちを節目節目に意思確認書で確認し、関係者が思いを共有し、出来るだけいいケアをし最後までその人らしく過ごして頂けるよう思いに応えて頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・定期的ではないが、全職員が救急法の講習会に参加し、備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的な防災訓練及び年2回地域と密着した防災訓練を行い、協力を頂いています。	マニュアルがあり消防総合訓練も年2回(夜間想定含)、又、ホーム独自の夜間想定訓練も実施している。訓練に近所の人も参加している。スプリンクラーは見積り中、自動通報装置や火災報知機等は定期点検している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・対応を心掛けていますが、利用者同士の関わりで自己中心的な考えの方もいる為、注意を促す事もあります。	入居者を人生の先輩として誇りや尊厳を大切にしたいと名前に「さん」づけで呼んでいる。耳の遠い人もおり気を使っているが、命令や禁止口調のようなものは感じられなかった。プライバシーを損ねない対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・自己決定の出来る方に関しては働きかけを行っています。出来ない方にも声掛けは行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・出来る限り希望に沿って支援する様努めていますが、1日中横になっている時は、声掛け等で動いて頂く事もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・洗髪時やトイレ使用時等、鏡を見ながら髪を整えたりしています。興味のない方にもご自分の顔を見て見る様声掛けを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・配膳や下膳、材料の下準備等のお手伝いを行っています。	ユニット毎に献立も違い食材の購入もそれぞれである。入居者の好みに合わせて、美味しく食べて頂きたいという姿勢が見られた。職員も同じ物を食しながら話題を提供している。法人の栄養士の助言指導も頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・初めから介助は行わず、摂取状況を見ながら食事介助を行ったり、定期的な水分補給の他にその場に合った水分補給の支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後ではないが、夜は必ず口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・介護度が進むにしたがって、自立に向けた支援は困難になってきている為適度にトイレ誘導を行っています。	トイレの排泄は生きる気力に繋がると、排泄パターンを把握しサイン等に気をつけ、トイレの排泄をお願いしている。夜は出来るだけ安眠して頂けるよう、その人にあったオムツやパッドを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分摂取や運動への働きかけ等行っていますが、思うように出ない為、薬での調整が増えてきています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・職員2名介助での全介助者以外は曜日等決めず、入浴の声掛けを行い、希望に沿った支援をしています。	入浴は出来るだけ気持ちよく、ゆったり毎日でも好きな時間に入って頂くようにしている。食後は眠くなり風呂に入る人は今はいない。柚子湯や菖蒲湯など季節・生活習慣にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・利用者一人一人に合わせた支援出来ています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・毎日の症状を確認しながら支援を行っています。変化があれば、主治医、看護師に連絡を取って対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・季節の変化に応じぬり絵や飾り作り、散歩や行事等取り組んでいるが全員は満足されていないと思います。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・ご家族の協力を頂きながら支援は行っているが、ご本人の体調面からも支援が難しくなっています。	外出は気分転換にもなり五感の刺激にもなるので、出来るだけ外出したいが、入居者の重度化が進み外出もいろいろ難しくなっている。季節によっては庭に出てゆっくり散歩したり、竹駒神社の初午大祭のお祭りに出掛けたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金を自己管理している方に関しては支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご家族に電話したり、元職員へ手紙を書いたり、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・工夫を行っているが、構造上の欠点もあり、まだ考えていく必要があります。	リビング兼食堂は、天井も高く照明も柔らかく床暖房でエアコン、加湿器、24時間の換気等で異臭のようなものも感じられず快適な環境であった。清潔で明るい雰囲気笑顔があった。お雛様など廊下に飾られ季節を感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・席替えを考えたり、食事以外に自由な場所に座って頂き、思い思いに過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅にて使用していた物を持参して頂き、使用して頂いたりして、居心地良く過ごせるような工夫を行っています。	居室は広く洗面所やトイレもある。加湿器やエアコンも備えられ環境に恵まれている。室内には身の回りのものが持ち込まれ、写真や時計や暦、ソファ、テレビ、位牌などこれまでの生活の継続が感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室内に関しては、ご本人が動き易い様安全面も考慮した配置に努め、共有場所に関しても、動きの妨げになるような物は置かないように努めています。		